

神戸のアーバンデザイン⑩
— 建築の保存問題について —



神戸地方裁判所



兵庫県公館 (旧兵庫県庁舎)



旧神戸商工会議所



武田則明
(建築家)

私は1972年の、芦屋にある山邑邸保存運動以来、旧兵庫県庁舎・神戸地方裁判所・旧神戸商工会議所等の保存運動をしてきた。

多くの建物が壊され、また多くの建物が残された。なかでも民家は次々に壊され続けているのが現状であろう。古い住宅は、汚い、雨が漏るとの理由で壊されてしまう。手入れをしなければ家は傷むであろう。壊してから後悔しても取り返しがつかない。大工が丁寧に造った仕事はなかなかすぐにはできない。少しずつではあるが、自分が生まれ育った歴史的な家や町が大切であることが分かりはじめた。全国どこにでもある家ではなく、その地域の個性を表す特徴をもった家に住みたいと思う。一人ひとりの個性を活かすことが個人主義の時代に求められているのだから。しかし考えてみると、個人主義の時代になんと住宅に関しても無個性なのだろうか。コモディカルや人の意見ばかり気にして、自分の意見のない時代になったのかもしれない。

神戸では建物は町の歴史を表し、町の文化の象徴だとの意識が高まったと思う。一方神戸を離れると、JR奈良駅を取り壊して新しい駅舎を建設すること

が新聞にでていた。いつも行政が使う手だが、お雇いの知識人を集め、審議会に都合のよい答申書を出させ、この建物は文化的に価値が無いと言わせている。少なくとも審議会のメンバーのなかに、建築の専門家が入っているとは聞いていない。会長は医者である。病人を診断するのに医者以外の人が診断しても、その結果を信用できるだろうか。奈良には日本の国宝建築が沢山あるので、昭和4年の建物は価値が無いのだろうか。

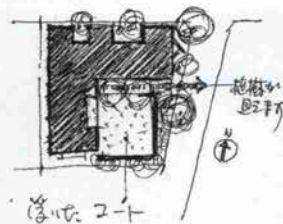
同じように大阪証券取引所ビルを建て替える計画が進んでいるようだ。コンピューターの時代になり、立ち会つての証券取引はなくなった。だけれども長い間景気の良い時も悪い時も経済の中心として活動をしてきて、常に新聞をにぎわしてきた。また年末年始に大発会を行っている姿を多くの人々に見守られてきた。続いてそこの本店を壊して建て替える計画が発表された。新生そごうの為に何かをしたいのは分かる。しかし村野藤吾の傑作であり、大阪のモダニズム建築の象徴、即ち歴史と文化の老舗としての形を壊して高級な商品が売れるとは思わない。もっと建物の価値を信じて欲しい。文化は市民が守らねばなるまい。

— 神戸に残してゆく風景 —
神戸のモダンリビング⑩

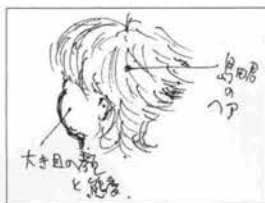


↓外に余地を提供

↑道路側から



↓中庭から



高月昭子

(計画工房INACHI)

人は「すまい」を持つとうとする時、何をよりどころに想い、何を求めているのだろうか、クライアントの意向を熟考しながら具現化し形にしてゆこうと努めます。それにしても、これから建物が生きてゆく年月を考えればあまりにも短すぎる期間で作業がすすめられてゆくののが現実です。

我々が設計を依頼されて最も重く責任としているのは、時間や時代と共に生きて寿命を永らえてゆけるものにしておくという事です。そのためには建物本体が丈夫に建っている事が大前提となっていて、すまいの基本としての暮しやすさ、居心地の良さに十分配慮されている事、家族構成や暮らし方の変化に対応できる事等々がきちんと含まれた上で、住み手の個性が年月の積み重ねで染み込んでゆける建物。そうであれば永く大切に使用われ、地域の環境の構成員としての役割を担ってゆけると考えています。

そして設計者の社会的責任はその地域の家並構成にとつての「何か」を提供できる「たまたますまい」と考えています。街並に配慮した「たまたますまい」を持つ建物が長い時間を越えてその場に存在し続ける事の大切さを、

我々は今回の地震で痛感しています。

ここに紹介している住宅は、20年を経過して全く建設当時のままで建っています。一戸建の住宅は木造で日本の風土にあった在来工法で工夫して建てるのがまだ最善だと思っていますが、一戸建の住宅をコンクリート造にする設計意図は、堅固だという事と街並を形成してゆく外皮を決定しておきたいという想いがあります。そして街並に對し可能な限りのオーブンスペースを提供しておきたいと考えます。

この建物は外皮はコンクリートですが内部と屋根は木造で、取り払えば全く一つのガランドウな空間になります。そろそろ家族の変化や、施主の年齢も上がってきて、改造の計画が必要な時期にきています。大きななかりしたフレームの中で将来の変化に対応できる建て方についておけば長い時間の経過で見れば費用のかかり方が格段に違います。住宅ローンのために働くような事はもう止めて、何世代もが少しずつ分相応な持ち出しで安心して暮してゆける「住宅」を残してゆかなければならないと気づいて欲しいものです。それが復興後の神戸ではどうか、考えさせられる問題です。

難病の子どもたちの夢をかなえる

「メイク・ア・ウィッシュ」活動

「Make a wish」とは、「ねがいごとをする」という意味だが、この名の通りのボランティア団体が今世界の20か国で、難病の子どもたちの夢をかなえるために活動を続けている。

「メイク・ア・ウィッシュ・インターナショナル」の本部はアメリカのアリゾナ州フェニックスにある。この活動は、アリゾナのクリスという7歳の男の子の、警察官になる夢から始まった。クリスは白血病にかかり学校に行くこともできなくなってしまったので、アリゾナの警察官たちは本物そっくりの制服とヘルメットとバッジを用意して



ハワイでヨーヨーの認定試験を受けた



ロサンゼルスユニバーサルスタジオを見学



セレッソの森島選手と車イスでサッカーをした



テレビドラマで台詞をしゃべった



橋本 明

〈社団法人家庭看護
促進協会事務局長〉

家庭看護促進協会のホームページ
<http://www.ponnetline.jp/~ainote>

クリスを名誉警察官に任命し、実際に駐車違反の取り締まりやヘリコプターに乗って空からの監視をさせてもらって大喜びだった。しかし、その5日後にクリスは亡くなった。ほんの短い間だったがクリスの夢はかなったのだ。この夢の実現に協力した人たちが、

いろいろな夢をもちながら、病気のために夢の実現が難しい子どもたちのために何かできれば、と考えて1980年に設立されたのが「メイク・ア・ウィッシュ基金」だった。このボランティア団体の活動は「難病のために夢をかなえることが難しい子どもたちの夢を

かなえてあげる」のではなく、夢をかなえるのに必要な手配や配慮をしてそのお手伝いをする事である。対象となるのは3歳から18歳未満の難病の子どもたちで、これまでに世界の8万人以上の子どもたちの夢の実現に協力をしてきた。

日本では「メイク・ア・ウィッシュ・オブ・ジャパン(MAWJ)」が1992年12月に設立され、昨年までに160人の子どもの夢がかなえられた。たとえば「デイズニールランドへ行きたい」「フロリダのシャツに会いたい」「ウルトラマンガイアに会いたい」

と電動車イスでサッカーをしたい(神戸・18歳男子)、「テレビドラマで台詞をしゃべりたい(神戸・14歳女子)」、「ハワイでプロのヨーヨー・チームの認定試験を受けたい(大阪・14歳男子)」など、かなった夢はさまざまだった。

夢の実現のためには難病の子ども自身、家族などからまず電話かFAXで事務局へ申し込むことからスタートする。主治医によって子どもの病名や症状がMAWJの夢をかなえる対象かどうかを世界共通の病名リストを参考に認定、審議の後、ボランティアたちの協力で実現に向けて努力される。

関西支部の森田亜矢子さんは「この活動は子どもたちの最期のお願いでありません。夢がかなうことで、子どもに次の夢が生まれてくるんです。その夢をもつことが生きる力となるのです」という。

さまざまな夢の実現には資金やボランティアの協力が欠かせない。日本には東京事務局(TEL03-32221-8388)の他に仙台、北陸、関西、名古屋、福岡に支部があり、協力者をもとめている。

■関西支部

〒650-0037 神戸市中央区明石町32
明海ビル4階 アルデンシャル生命保険神戸支社内
TEL&FAX 078-3333-5306
Email: mawkan@gol.com
http://www.erde.co.jp/~wish_japan/

真夏の太陽の下、砂で海の生き物をつくろう！ サンドフェスタ2000が開催

神戸の明日を担う若き青年経済人の集い神戸青年会議所に、今年は約40名が入会を希望している。毎年夏休みには、その入会希望者たちが自分たちでアイデアを出し合っ、地域との交流をテーマに家族で楽しめるイベントを企画している。今年は子供たちが砂像をつくることによって、物をつくることの楽しさや喜びを体験してもらおうと「サンドフェスタ2000」が企画された。

8月19日、会場となった白砂青松でお馴染みのアジュール舞子（垂水区）には、市内から24組の子供連れファミリーやカップルが招待された。約1メートル四方にもられた砂山を自分たちの創意工夫により、スコップや手を使って海の生き物をつくり上げていく。作品は海の生き物に限定され、カメ、タコ、イルカなどに人気集中。中にはワニや人魚など、海の生き物？と、首をかしげてしまう作品もあった

が、それでもなかなかの力作ぞろい。最優秀賞には審査の結果、村地さん、唐木さんご一家の人魚姫が選ばれた。

また会場の中央部では、JCメンバーたちがメイン砂像として6メートル×1メートル×1メートルのクジラに挑戦。日差しにさらされると砂山は乾いて崩れやすくなるため、海水をかけながら骨の折れる作業の連続となったが、見事に完成させた。

それにしても、砂像をつくることになってからのJCメンバーたちの苦労たるや相当のものだった。まず、アジュール舞子の砂は粗くてなかなか固まらないのだ。実験に実験を繰り返した結果、砂に粘力のあるデンプンを混入することで砂を固めることに成功した。砂像を担当したメンバーは仕事の合間をぬって、3日連続でアジュール舞子で実験したりと大忙し。しかし、そんな苦労の甲斐もあって、参加者たちは砂像づくりに夢中になっていただいた。とくに子供たちにとっては、残り少ない夏休みの思い出づくりになった様子。そんな光景を目の当たりにし、JCメンバーたちの喜びも一入であった。打ち上げの席で、感極まって涙を流すメンバーの姿も。

(高橋)





「兵庫県立神戸生活創造センター」オープン 新しいライフスタイルの創造を 支援します

お話を伺った方 藤池 俊さん (兵庫県立神戸生活創造センター所長)

今年四月に誕生した「神戸生活創造センター」は、皆さんの新しいライフスタイルの創造に向けた活動を支援する総合拠点です。JR神戸駅からすぐのクリスタルタワー二階から六階にあり、アクセスも便利。充実した設備に加え、専門的なスタッフによる支援・アドバイスや、多彩な講座が用意されています。今回は、このセンターの施設内容や、活用方法などについて神戸生活創造センター所長の藤池俊さんにお話を伺いました。

— センターが設立された趣旨をお聞かせください。

本格的な成熟社会を迎え、県民のみならずの意識や価値観は、「モノ」から「ココロ」の豊かさへと大きく変化するとともに、多様化してきています。こうしたことから、県では、県民の皆さんの「自分を高めよう」、「暮らしをよりよくしよう」、「社会参加活動をしたい」という主体的な活動を積極的に支援する拠点として、生活創造センター構想を推進しています。この構想に基づき、平成八年に開設した丹波の森公苑について、当センターは県下二番目の施設としてオープンしました。ここは、主に神戸やその周辺地域の人々や実践団体の新しいライフスタイルの創造をお手伝いしていくとともに、暮らしに関する全息的な相談や情報発信の機能を

を備えています。

— センターの主な機能、行っている事業はどんなものでしょうか。

主に四つの機能があります。

一つめは、県民の皆さんの主体的な活動や、相互交流を支援する機能です。会議室をはじめ、絵画や手工芸など幅広い創作活動に利用可能な創作工房、音響・映像設備を完備した生活創造スタジオのほか、創作活動などの成果を発表・展示するためのギャラリースペースなど多様な活動を展開できる設備があります。また、環境、健康・福祉、地域づくりなど社会参加活動をしている実践団体が、生活創造プラザグループとして当センターに、登録すると、活動ブースや、印刷・製本室、ビデオ編集室、グループロkker、レターボックスを無料で活用できるなど、団体の円滑な運営をサポートしています。

二つめは情報機能。生活情報プラザでは、蔵書を約一万冊、ビデオを千八百本集積し、全国ではトップクラスの生活関連情報量を誇っています。県内各地の情報や企業情報はもとより、さまざまな実践活動団体や社会参加活動に役立つ情報が集まり、生活情報活動アドバイザーが皆さんの知りたい情報を分かりやすく案内しています。

三つめは相談機能です。商品や契約のトラブルから、住まい、家計の相談など、

みなさんの生活設計づくりに関する相談にお答えしています。

最後に学習機能。生活創造大学やくらしの実践講座など県民の皆さんの様々な学びの機会を提供しています。また、専門的な技術と知識を有する活動支援コーディネーターが、講師の紹介や、実践団体の運営ノウハウなどの手助けを行っています。

— 新しい生活創造活動を支援する機能が、「ぎゅつ」と詰め込まれていますね。

そのとおりです。オープンして約半年経過した現在、このセンターを拠点に活動の輪を広げている生活創造プラザグループ数は約二百団体あります。充実した設備と、専門技術を持ったスタッフに加え、先日、ホームページを開設し、センターの事業紹介・イベント案内をはじめ、センターにある蔵書や生活創造プラザグループなどの情報を発信していくことにしています。

さらに、現在ご好評をいただいている生活創造プラザグループと当センター共働きのセミナーや講座も、引き続き様々な分野に広げて催していきたいと思っております。これからも、親しみやすく、利用しやすい場づくりと、皆さんと一緒に生きがい創造や自己実現につながっていくような事業の企画・催し物をしていきたいと考えていますので、ぜひ、多くの方々当センターをご利用いただきたいと思います。

あなたの倉る・学ぶ・知る・相談を支援します
兵庫県立神戸生活創造センター

登録がグループの
発表の場も
あるから
やる気も出るね

個人で参加できる
セミナーもあるわ

これは腕も
ぼくの腕も
おんなじだ

ホテルのシェフに
教えてもらったんだ

いろんなプロの
ノウハウを
教えてもらってるんだ

スタジオで
ダンスの練習

講座研修室で
勉強会です

講師の紹介も
してもらえます

保育室も
あるよ

友達との
打ち合わせも

いろんな疑問を
相談できるのよ
専任スタッフに
アドバイスして
もらえますわ

本やビデオも
自由に
調べられるぞ
自分ですら
調べてみよう

ビデオの編集も
できるし
本だって作れる

グループ活動してるなら
登録すればいろんな形で
支援してもらえますわ

自分達で
活動し
それを支援するのが
このセンターです

こんなに
便利で楽しく
利用できる所なんだね

H.P.が
簡単だから
インターネットで
検索できる



ミステリーグルメ

神戸篇

ONE DAY LILY

—そして神戸—

ウドノ葉生子



波

留業が2階に上がってゆく姿を目で追いながら「大丈夫かな」「多分……。しかし、医者が来たようだから尋問はきつと拒否するだろう」

寝室は淡いクリーム色で統一され落ち着きがある。夫人は家族に囲まれていて、中央のセミダブルベッドの中で、少女的な匂いをただよわせ深く眠っていた。いつもの優雅な表情がすっかり消え失せ、夫人の歴史の数だけわれわれに再認識させようとしていた。

医者が眉を曇らせて「やはりショックだったんでしよう。バスルームで倒れていらつしやいましたよ」豪邸のお抱え医者も仕立てのいい英国ブランドのダブルスーツを着込み、年配の看護婦を一人同行させている。多分、夫人のために付き添いを用意させたのだろう。

そこへ田代刑事が入ってきて、われわれにさりげなく目配せしたので部屋の外に出る。

彼の手に何か握りしめられている。

「どうした、田代君」

「ハイ。現場検証してましたら、ガイシヤの枕の下からこんな物が出てきました」

白い封筒であって、表書きもない。封筒の中には数枚の便箋が入っていた。

「何だろう、コバさん」

「ウン……」と言いながら目が便箋に走っている。

唸りながら、コバはやつと読み終えて、僕に渡ししてくれた。

何だ、これ。

なんと、ラブレター。それも夫人へ切々たる恋情がしたためられていて。

彼が呻き続けたわけが納得できた。

《覚えているかい。忘れられない神戸の夜。二人が結ばれた時、君の暖かい涙がぼくの頬に落ち、その時どれほど深い愛と責任を感じたことか。僕の愛を受け入れてくれて本当にありがとう。君の心情が痛いほどわかる。この愛を一生大事にしていくつもりだ。この忌まわしい一件が落着いたら二人でゆつくと

り世界一周の船旅に出ようじゃないか」

以下、綿々と恋心が書き綴られていた。

なのに、どうしてこんな不幸な事件が起ったのか。

不安と恐怖が、横田俊充を、なぜここまで純粹にさせたのか。

「これで自殺説はとんだが、現場に大勢の人がいたのに誰も見ていないとはね」とコバが愚痴をこぼす。

「いや、コバさん。逆じゃないかな。僕は誰かが見ていたとふんでいる」

「名探偵の眼力か」

「フフ…犯人ともう一人、もしくは複数」
「見て黙っているのか」

「多分」

「なぜ？」 問いかけたコバの目が突然、僕の口を抑える。背後に人の気配を感じたらしい。

たしか、長男の義充も神戸で恋人と別れたと言ったつけ。神戸の六甲山にも別荘があるというし、横田家の社業発祥の地も神戸、偶然か波留菜のボーイフレンドも北野町にある在神外国人サロン「神戸倶楽部」のメンバーだという。ムム…共通項として「神戸」が。こう考えれば話は早い。

「よし。解決するために、神戸ツアーとしゃれこむか」 ニヤリとコバを見ると案の定である。

「おいおい、困るぜ。本格的事情聴取もこれからだし、それに事件は東京だぜ」

「アウトラインは地元の田代刑事に任せて、そのあとの詰めにどうだい、いい考えだと思ふよ。ここではきつと埒があかないと思う。打開策として、全員をの気持を裸にして一挙に解決といきたいね。それにさ、故人を偲んで粋な神戸ラブストーリーとなるじゃないか」

「(洪々と) こつちの事情聴取が済んだら、君のやりたいうちにやっつけていいよ」

「サンキュー、任して。なんとかやってみるからさ」
「よし、わかった。ところで邪魔だろうが、その時、僕も同道させてもらおうよ」

「喜んで。コバさんも久しぶりの神戸を楽しんでよ」
「うん、何か元気になってきたな。ジュリアン」

「お互いの情報も交換といきましょうか」
「いいけど、電話とコンピューターはまずいぜ。こ

の頭素人の盗聴とかハッカーとやらが問題だからな」
「よし、取引成立。犯人をあげようぜ。コバさんの名譽は僕に任せて」

「俺はそんなにアホか」
「いや、切れ過ぎていけない」

「…つたく。ほめてるのか、けなしてるのか」
そんな2人の間に、サーッと一陣の風が通り抜けた。きっと、横田俊充のさまよえる霊だ。われわれに何かを教えたいのだろうか。

「いよつ、ジュリアン」
「あれえ、先生。ドイツじゃなかったんですか」

「そうなんです。いや、でもお会いできて嬉しいですよ」

東京駅の新幹線17番線のホームで、姫路獨協大学の小室豊允学長にバツタリ出会った。

「お疲れだな。さては難事件か」 小室先生の目が光る。
「お察しの通り。疲れます。しかし、先生は分刻みで外国、国内とまあお忙しい。よく体が持ちますねえ。僕なんて先生のスケジュールを見ただけでグツタリですよ」

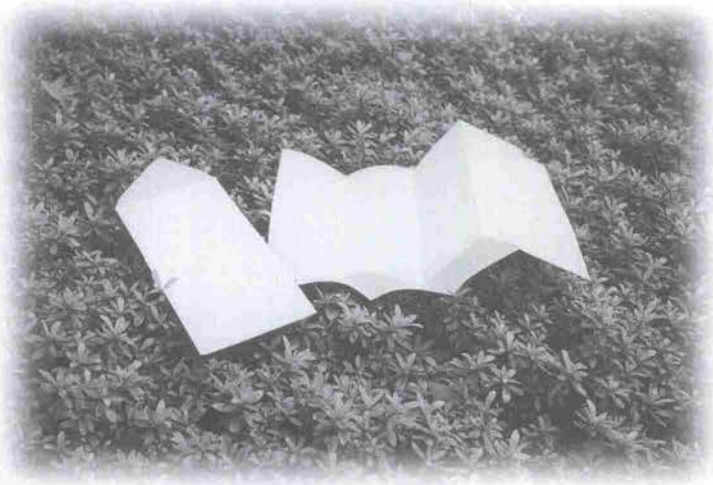
「アハハ…。仕方ないんだよ。時間と人に追つかげられる宿命。キザかな」

「イエイエ、しかし、少しは個人的にエンジョイしてくださいね」

「ありがとう。ジュリアン。僕も君のようにもてたらね。人生、もつと輝くかも」

「よく言いますよ。先生。若い子から年配まで広範囲じゃないですか。僕のテリトリーって知れてますよ」

「まっ、そういうことにして(笑)、事件が片付い





「おたがいさま」

波留菜の目が言葉と裏腹に温かい。お互い世の中から異端視されている同士だから？

義充は日本経済新聞の二面を食い入るように読んでいる。興味ある記事なのだろうか。時折、無音で入ってくる携帯電話に身をかためて、小声で何やら指示を与えている。会社の関係者みたいだ。

福充はマックのノートパソコンを抱え込んで離さない。インターネット情報を取っているのかと思ったら、服のデザインを画面に取り込んで四苦八苦しっているようだ。

夫人は、お手伝いの君子と向かいのホームにたむろしている団体のツアーバック客をぼんやり見つめている。あの事件以来、白髪が増えて痛々しい。

一族の顧問弁護士であり僕のボス、柴田敏之先生は、携帯電話が体質的に嫌いらしく必ず事務所の若手弁護士を同行させている。今回は僕の失態で、顧問先の思わぬ事件が発生してしまったので、先生のご機嫌はいいとは言えない。

コバさんは皆から少し離れたところで、一族の個々人をじっくり眺めている。時折、僕と目が合うとニヤッと口元がゆるむ。

親族の林次郎も義充の顔を盗み見ながらコソコソと夫人の耳に何やら囁いている。一族の子会社である貿易会社の専務で事件発生時、義充と談笑していたという人物である。一見、温厚そうな重役タイプであるが、評判はなかなかのやり手で寝業師と聞く。「ひかり」は神戸に向かって発車した。東京から新神戸まで3時間15分もいずれた短縮になるだろうが、食堂車が廃止になったのが心なしか淋しい。一

杯のビールが旅というくつろぎを与えてくれるものなのに。機能的、効率的が優先では情緒がなさすぎる。だから悪質な陰湿な事件が発生するのである。

「いやあ、お待ちしていました」ホームには、なんと今夜全員が宿泊する神戸ポートピアホテルの内仁社長が待っていた。

「どうしたんです」

「いや、今回、横田様にご宿泊いただけるので、ジュリアンさんにお礼を申し上げようと思って」

「何を言ってるの。大社長ともあるう人が、何か特別の用事でも」

「いえ、それはありません。ホント素直な気持ち」この30代のやる気満々の彼には太刀打ちできない。謙虚で仕事熱心で、行動力があるから評価されるのも当然か。

「皆さんのお車、一応ご用意させてあります」

「いやあ、ありがとうございます」

「とんでもない。ジュリアンさんも東奔西走で大変ですね」

「まあね」とさりげなくお互いに笑みで読みとる。

(つづく)

たら一杯、ご馳走するか」

「ありがとうございます」と言いながら、10メートル先で賑やかに談笑している30人ぐらいの大富豪横田一族を視線で紹介する。この団体だけホームでは際だって見える。そりやそうだろう、隠れた日本の財閥であるから、さながらファッション映画のロケ風景のようである。

チラッと応える先生の眼差しが一瞬鋭い。

「じゃあ、ジュリアンも忙しそうだから、今回は離ればなれで神戸へ帰るか」と言うが早い、もうスタスタと8号車に。行動が早い。時代を早く読む人は違ふと感心しながら横田一族のざわめきの中に戻る。

「誰？ あの人」

「僕の尊敬する師匠ってどこ」

「へーエ、あなたにも尊敬する人がいるんだ」

「キツイ言葉だなあ」



ウドノ葉生子

作家、TVイベントプロデューサーなど多様に活躍中。月刊神戸っ子に「松田家ものがたり」連載。若者向け著書「音声多重面白構造」(三水社)で人気を集める。最近作「あぁ、万事塞翁がふ・ん・な」(文園社)では神戸花隈の花柳界の歴史を綴る。ラジオ日本「ウドノヨコ」のざっくバラエティのパーソナリティを阪神・淡路大震災まで務める。

KFSニュース

マンスリー神戸ハイカラ文化シリーズ第2回

10月20日(金) 18時30分~21時

講師 田辺真人先生

場所 ハーバーランドレストラン
ブレラ・テーブル

参加費 3,500円(食事付)

連絡先 「COL」加納代表理事
TEL.078-331-2020
FAX.078-332-2510



K.A.T
ファッションショーへのお誘い
10月29日(日)
神戸外国倶楽部にて

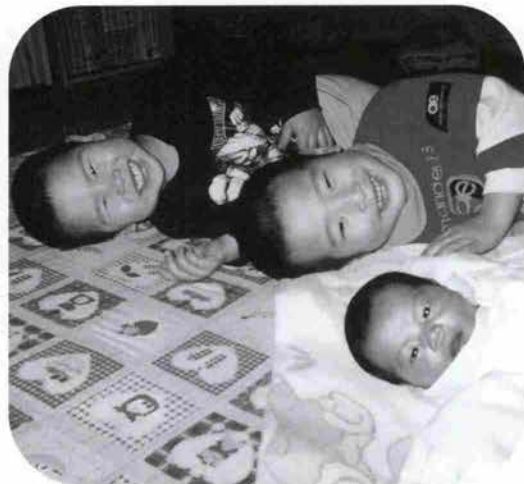
★午後2時30分 受付
★午後3時40分 ショー開幕
★午後5時 ディナーパーティー



SAMOTO CLINIC

佐本
産科

ママといっしょに



あかちゃん: ^{すいしゅ}水舎 花ちゃん
(平成12年2月17日生まれ)

長男: ^{はじめ}大くん
次男: ^{かなめ}要くん
パパ: 敬一さん
ママ: 繁子さん

「お花のようにかわいくて、温かな女の子に育ってくれるといいな…」

★佐本産科・婦人科★
佐本 学

神戸市兵庫区中道通4-1-15
TEL:078-575-1024 (病室TEL:078-577-7034)
市バス上沢4停南スグ

●駐車場完備●

竹久夢二

「四つの恋のものがたり」

〈その十七〉金策の夢二、アトリ工建設決心

中右 瑛

イノチトリトメタカネタノム

ナカシブヤ タケヒサ

震災後、夢二の収入は激減した。平素から貯金はなく、ピーピーだった夢二は、知人やファンに金策を頼むことが多かった。巻頭の電文は、震災直後に、堺市の山田市蔵に宛てた金の無心である。

つづいて発送した手紙には、
「電報でお騒がせしてすみません。小生の住居は全く安全で助かりました。

子供も無事生きています。しかし、味気ない世の中になったもので、人心はけはしくなり、金は逼迫する。人間は薄情になるか、迷信的になるか自暴自棄になるかして、人の心も神さへも頼れない不安の上にあります。

小生のようなその日ぐらしはまづまづ気楽ではありませんが、取引先は不始末で、ちよつと手も足もでぬ騒ぎ。申しかねますが、少々お借りしたいと思えます。持っているものは何も惜しくなく、ただもう命が惜しくなりました。

取りあえず、お願いまで。



竹久夢二筆「秋晴れ」
若き母親と乳母車の子、しゃれたモダンな作品。昭和初期のもので、渡米資金のために売られた。夢生と署名されている。

九月十二日 夢二

山田雅兄机下

つづく電報。

カネラクシユカンシヤ ユメジ

金策に追われる夢二の姿が察せられる。

金策を頼んだ山田市蔵とは、夢二の京都高台寺時代の友人で無産党代議士となった山本宜治と東大同期であった山田種三郎の弟である。明治三十三年生まれ、当時、数え二十四歳。熱心な夢二ファンで若きスポンサーでもあった。

市蔵には、その後もたびたび助けてもらっている。夢二は市蔵のことを、手紙では「青夜居」と呼び、自分は「竹環亭」と名づけたほど親しい間柄である。

金に対して無頓着な夢二。その金なし夢二が、またまた金が有用となる。それも大金がである。自分の家を建てようと画策したのだった。

その決心をした動機はお葉にある。浮草生活をきらい、「安らぐ

さらば我世の幸福よ

ロシア・カラト井一ギン 作曲



セノオ楽譜
「さらば我世の幸福よ」夢二装画

中右瑛 抽象アートとおもしろコレクション
一恐竜のタマゴから夢二・歌麿・
写楽の浮世絵名品まで—
とき 10月1日(日)~11月5日(日)
10:00~17:00(月曜休館)
ところ 財団法人 恰美術館
鳴門市撫養町妙見山公園
TEL.088-686-1611
料金 大人900円(前売700円)
小・中・高生300円

■中右 瑛(なかつ・えい)
抽象画家。浮世絵エッセイスト
1934年生まれ、神戸市在住
【受賞歴】行動美術展において奨励賞、新人賞、会友
賞、行動美術賞、浮世絵賞、浮世絵賞研究の功績により
浮世絵内山賞受賞、半どん現代美術賞、兵庫県文化
賞、神戸市文化賞など受賞。
現在、行動美術協会会員、国際浮世絵学会常任理事。
著書に、抽象画集「シエリト・リンド/ミラクルブ
ル」の世界、「浮世絵ミステリー 藝談」写楽は18才
だった、「忠臣蔵浮世絵」「豆本・夢二黒猫絵講」
がある。

家「楽しい家庭」を望んでいたからだという。

「子供たちも呼び寄せ、一家団樂の家庭を持とう」

放浪癖の夢二が、お葉にせがまれやつと決心したのだった。

震災の翌年春から準備が着々と進められた。

場所は東京郊外の世田谷松沢村松原七九〇番。三百六十坪の借地で、木々に囲まれ小高い丘からは秀麗な富士も望める。

五月八日、敷地は上田丈吉が保証人となって借地契約が結ばれた。

上田丈吉とは角丸証券の重役で、宇田川・夢二宅の隣家・西出朝風先生のご夫人の兄・金満家の上田龍耳のことである。お葉の兄で、結婚に反対した永井淳嶺にも金策を頼む。また牧野保之からは八百六十円という高額を借用。すべて借金で賄われていたという。

夢二設計の瀟洒なアトリエ付きのスイートホーム。

八月五日、上棟式があった。有島生馬や金主ら友人が二十人ほど来て、歌をうたいお祝いをしてくれた。建築は順調に進んでいたのだった、が……

その直後の九月一日。関東大震災からちょうど一年目のことだった。夢二にとつて災難が再びやって来た。なんと！ お葉が家出してしまったのだ。

お葉のために建築しはじめ、あれ程に待ち望んでいたのに……。その日、宇田川町の夢二宅を訪れた有島生馬は、夢二が気が抜けたように独りポツンと黙り込んで奥座敷にすわり込んでいるのを見て不審に思った。

「お葉がいない……」

夢二は生馬に語りかけた。

「たんすは空っぽ。鏡台もない」

書き置きがあった。

「もう二度と帰らないでしょう。心配しないで。さようなら。お葉」
お葉はまだ二十一歳。若くて美しい。新居がもうすぐ完成だとい
うのに、夢二は大ショックだった。

お葉の家出は単独行動ではなかった。そのころ、隣家・西出朝風先生
の若き書生・小原清次も消えていた。

ZOOM IN ZOO

NO.401



実録 王子動物園史

＜日本初・マレーオオコウモリ誕生(1953年)＞

亀井一成の
ズームインズー



①逆さが大好き！オオコウモリの赤ちゃん

ゾウの摩耶子に続いて諏訪子（現在57歳・日本最長寿）を、現王子動物園の前身である旧諏訪山動物園に迎えたのは1950年9月28日でした。

そして翌年1951年3月20日、現王子動物園の開園となったのです。

旧諏訪山動物園は、終戦後の情勢にともない1946年末ついに閉園、その後は国際動物愛護協会の手によって、生き残った動物たちを管理することになりました。当時、同協会の理事長として、また園長として松村豊吉氏（後に王子動物園副園長）が就任されていたのです。

「カメイ君、石炭が着いたゾ」

あの諏訪山登山道を、石炭をかついで何度往復したことか。もちろん動物たちのエサすべてを人力で運びあげたことが忘れられません。

初代園長山本吉之助氏就任は開園2年目、1952年でした。

「カメイ君、ボクは植物の方は専門だが、動物の方はダメだね。一緒に勉強しようね」

現業のボクをよく信頼してくださり、ゾウを連れての移動どうぶつ園に際しては、出張先までの送迎に足を運んでくださいました。

ゾウの出稼ぎ出張

「カメイ君、市長からも「ゾウの出張



①当時のゾウ舎は木造で、右側の日除けは飼育係の手作り。若かりし頃の筆者とゾウの諏訪子

にはくれぐれも気をつけるように」との伝言があったよ」と、山本吉之助初代園長の笑顔が忘れられません。

その当時のことを、故宮崎辰雄前市長著「神戸を創る」にも、

「昭和25年に開いた神戸大博覧会が大失敗。（中略）「せっかく大金をかけるなら後まで役立つものを」と注文をつけたが、跡地は王子動物園開設したからいいようなもの……。（中略）ゾウは、金沢博覧会の呼び物だったものを400万円で購入し、神戸博終了後は諏訪山動物園で飼育。もう1頭買い、各地に貸してモトをとろうとした。翌年に王子動物園が開園するまで、明石・姫路など県内から、中国・四国まで稼ぎに行った。」



① 1952年に王子動物園にやってきたマレーオオコウモリ



② 日本動物園水族館協会から贈られた名誉ある「繁殖賞」

と記されているとおり、深夜に諏訪山から異人館通り、そして布引から東灘貨物駅まで、ゾウを連れてボクは何度往復したか分かりません。

1951年、王子動物園への移転時に、ゾウが暴走したのは、それが日中で、市電に驚いたからなのでした。

マレーオオコウモリの日本初の誕生に繁殖賞受賞

「カメイ君、オオコウモリを寄贈したいと、外国航路の船長さんからの電話でね、どうしよう」

「園長さん、いただきますようによ」

ヒグマ・ゾウ・クロヒヨウ・アリゲーターに小鳥の展示室、あとはブタ・ヤギ・ヒツジくらいで、一種一点でも

増やしたい当時のボクは、カゴに入ったオオコウモリをいただきに出掛け、仰天！

「これはデカイコウモリ！」

カゴに手をかけたボクに大声で威嚇してくるオオコウモリが、マレー産であること、バナナやリンゴが好物つまり食性は果実食、フルーツバットの仲間だと凶鑑で判りました。

「園長さん、これはいへんな珍獣ですよ！」

さて、果実をやるうとしても、当時はバナナなど超高級品で、エサにするなど考えられない時代。リンゴ・ミカン、それに煮たサツマイモを角切りにしてヤギ乳に浸して食べさせたのです。暖かいマレー産オオコウモリの越冬

は非常に難しいと、東京上野動物園からの手紙。今日のようにエアコンなどありはしません。石炭ストーブのあるゾウ舎の隅に、このコウモリを吊るし、ようやくのこと冬越しができたのでした。

「えらい荒々しくなった」、それに肥っていることに気づきましたが、まさかこのコウモリが妊娠しているとは夢にも思っていませんでした。

「園長さん、コウモリが赤ちゃん産んですよ！」

ゾウ2頭を外に出す作業も後回しに、園長室に駆けこんだのです。

現在のゾウ舎が完成したのは王子動物園が開園して3年めの1959年6月。それまでのゾウ舎は、写真のとおり木造のせまいゾウ舎で、冬の暖房は石炭ストーブ（石油ストーブすらまだなかった）。奥の隅に2畳の宿直室があり、そこへオオコウモリをカゴに吊る

しての飼育でした。

そして、ようやく手探りで春を迎えたころ、肥ってきたことに気づいてはいたのですが、

「えらい血や！」

カゴの下を血で汚していることに気づいたボクはびつくりしました。

「コウモリの赤ちゃんや！」

親が逆さまだから赤ちゃんも逆さ。母親はうすい羽代わりの腹で、包むように抱いていたのです。

その日、1953年7月16日、その子は初めてなのに元気に成育。

日本で初めての繁殖で、6か月以上成育したとき、きわめてありがたいタイトル「繁殖賞」がいただけました。

「おめでとう」

とても喜んでくださった初代山本吉之助園長さんの握手が忘れられません。王子動物園開園初の「繁殖賞」だったので。

連載400回記念！

亀井一成先生が撮影した
写真を5名様にごさしあげます
(亀井さんの直筆サイン入り！)

↓アフリカ北部砂漠地帯にすむ「フェネック」



ご希望の方は、ハガキかFAXに住所・氏名・このページの感想、または亀井先生へのメッセージを書いて下記までお送り下さい。

〒650-0011 神戸市中央区下山手通3-1-18
ツイストアビル4階
月刊神戸っ子「ZOO」係 FAX 078-331-2795
(10月30日消印有効)

有馬歳時記

神戸 秋の風物詩・有馬大茶会

心からのおもてなしを感じるお茶席



副席のひとつ瑞宝寺公園の野点席（昨年のように）。紅葉が美しい



お話をうかがった永岡住職。念仏寺の庭の沙羅双樹の花は有名。毎年6月には花のもとで一弦琴の鑑賞会も

有馬にたびたび訪れたという太閤秀吉公は、大名や千利休、ときには有馬の町の人々を招待して茶会を開いたといひます。それにちなみ、今年も十一月二日・三日に、紅葉のなか、恒例の「有馬大茶会」が開かれます。五十周年をむかえる今年の大茶会の見どころについて、念仏寺の永岡大純住職にお話をうかがいました。

有馬温泉で秀吉公を偲ぶ大茶会が初めて行われたのは昭和二十五年。今年には五十周年記念にあたる。「今年には御茶券が一万円と、ふだんよりも高いのですが、その分一席の時間を

露天風呂とご昼食
ひさご弁当
兵衛
向陽閣
TEL (078) 904-0501(代)

有馬温泉月光園
GEKKOEN
鴻臚館
KOROKAN
TEL (078) 903-2255
姉妹旅館 游多山荘
TEL (078) 904-0366

テニスでいい汗
いい湯にとっぷり味に集う
ARIMA
SUNNY SIDE UP
TENNIS CLUB
TEL (078) 903-1024
攝津有馬
御所坊
TEL (078) 904-0551

静寂さにつつまれた
くつろぎの宿
国際観光旅館
904 333
陵楓閣
TEL (078) 904-0675
TELEX 5627-115



有馬グランドホテル「雅中庵」席（昨年のようす）

長くおとりし、ゆつくりと静かな雰囲気
 気やかなでお茶を召し上がっていただ
 けます」と、永岡住職。
 「お茶会の当日、どんな茶器を使うか、
 どのお茶碗でお出しするか、そして床
 の間にはどんな掛け軸をかけるか、席
 の主人はずっと前から考え、用意しま
 す。特に掛け軸は、季節と、そのお茶
 席の心を一番表しているといわれます。
 主人は野山に入って、今日のお客さま
 のためだけに花を切り、床の間に飾り
 ます。つまりお客さまをどんな心でも
 てなすかと考えるわけです。客は、自
 分たちのために用意された、主人のも
 てなしの心を拝見する。お茶は、そう
 いった心と心のやりとりが基本となっ
 ているのです。」

茶席で出されるお菓子も、有馬のほ
 うぼうの菓子店で見本をたくさん作り、
 そのなかから当日のそれぞれの席に合
 った菓子を選ぶのだそうだ。

第一回有馬大茶会が行われたのは、
 まだ戦後五年、戦災から復興しつつあ
 るとき。心が荒れている時代にひとつ
 のゆとりを見出そう、日本の心の文化
 を大事にしようという大茶会がはじまった。
 太閤さんの故事は、ひとつの名目で、
 日本人の文化を大事にしようという思
 いだったそうだ。

秋まっさかりに開かれる有馬大茶会。
 日本人の心のおもてなしを味わうた
 めに、ぜひ茶会に出席してみたいか
 がしょうか。

第五十二回 豊公を偲ぶ有馬大茶会
 十一月二日（木）

三日（文化の日）

● 献茶式

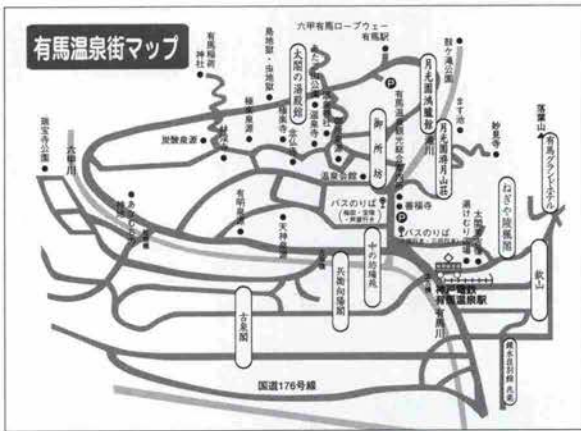
善福寺 二日午前十時より
 （今年には表千家家元千宗左さんが、善福寺に
 伝わる秀吉公の位牌に御奉仕します。先着百
 名の参列ができません）

● 副席

有馬グランドホテル 雅中庵
 念仏寺
 瑞宝寺公園（野点席）
 二日・三日とも午前九時より午後三時まで
 有馬温泉総合案内所前より、随時「茶会無料
 バス」が運行します。

● お問い合わせ
 有馬温泉観光総合案内所
 ☎（078）904・0708
 有馬温泉観光協会
 ☎（078）904・3450

★御茶券プレゼント
 献茶式、副席三か所、点心席、会引交換券が
 ついた御茶券（当日券一万円）をペア二組
 （四名様）にプレゼントします！
 応募先／〒650・0011 神戸市中央区下
 山手通3・1・18 ツインズトアビル4F
 月刊神戸っ子「有馬」係
 〆切／十月二十日必着



有馬での会食・宴会は懐石料理・ステ
 ーキが楽しめる「華筵」で!!
 (昼5000円〜、夜8000円〜)
 有馬温泉 政府登録国際観光旅館
 銀水荘別館

北楽
 ちやうらく
 TEL (078) 904-3656(代)
 URL: http://nrjp.com/chyoraku/

自然の恵みを
 湯けむりに伝える

政府登録国際観光旅館

古泉閣
 TEL (078) 904-0731

日本の伝統
 数寄屋造りの館

欽山

TEL (078) 904-0701
 チェックイン13:00、アウト12:00
 ゆっくりとお過ごしいただけます。

雅たようくつろぎの館

中の坊珠苑

TEL (078) 904-0781
 会議セミナーからご家族づれまで
有馬グランドホテル
 TEL (078) 904-0181



秋の味覚松茸を2000年に
こだわったおいしいお値段で
「神戸吉祥」

おすすめは「松茸の天婦羅膳」。松茸の香りが衣に封じ込められて、新しいおいしさ(2000円)。但し、二千円札でお支払いの方のみサービス。土瓶蒸しが付いた松茸の天婦羅膳(写真)は2999円。五千円札を出してみてもつりが2001円に。遊びごころのこのお値段、「とてもきついですよ。でも多くの人に来てもらいたいから」



松茸の天婦羅膳 (土瓶蒸し付き) 2999円

福原の一角にある日本料理店。ご当地の文化を守りつつ、情報発信も。
*前日までに必ず予約を。

神戸吉祥
神戸市兵庫区福原町11-12
078-574-2814
11:00~14:00/17:00~22:00(L・O 21:30)
木曜休(予約のみ営業)
http://www3.big.or.jp/~kissnou/index.htm



ベトナムの風を感じてみて！ 「コロニアル・リビング」オープン

オールマイティな空間を自分流にアレンジして過ごせるカフェ・レストランがトアロードに8月26日誕生した。2階のエントランスルームは125



癒やし系ルームでアジアのリゾートを満喫

席でコロニアルスタイルのオープンエアカフェとベトナム・タイのアジアンキューイジーヌ料理がそろうたレストラン。

水やカウンターバーもあって4階まで吹き抜けて気持ちいい。回廊式の3階と4階は、まさにアジアなプライベートルームで23室178席。どんな編成のグループでもOK。カラオケももちろん楽しめる。フードを一人2品以上オーダーすれば、2時間までルーム料金は無料となる。アジアンカクテル580円。ベトナムコーヒー450円。あさりのレモングラス蒸980円。ランチメニューはセットで980円。

コロニアル・リビング
神戸市中央区下山手通2-13-9中華会館2F
予約078-392-0440
日曜~木曜11:00am~0:00am
金曜・土曜11:00am~5:00am



印度料理の新世界「カマール」

新印度料理「カマール」はその名のごとく蓮の花をイメージし、インドの田舎風の土壁やステンドグラスの張られた高い天井にインド人オーナーのセンスが生かされている。インド人シェフが日本人好みにアレンジしたタンドール料理が自慢のこの店、実はゲイロードの姉妹店。チキンサモサなどの前菜にはじまり炭火焼の車えびやチキンをミントの香るヨーグルトソースで、そして数種のナンと小豆・マトンなどをベースにしたカレー(他に15種以上有り)をいただく、もうインド料理に辛いORカレーという単純な発想はなくなるはず。インドの伝統的な弦楽器シタールの生演奏を楽しめる「シタール エキゾチックナイト」がおすすめ(10/22(日)19:30)。ランチ平日800円、ディナー2800円。



300℃もあるというタンドール(土釜)で焼く炭火料理。直に手を入れてナンを焼くようすも店内から見られる

新印度料理「カマール」
神戸市東灘区本山北町1-7-3
シルクロードガーデン2F
078-413-8702
11:30~14:30/17:00~21:30
月定休



カジュアル和食と細やかなサービス 「ゆず屋」オープン

店の名前どおり、料理にはゆずがふんだんに使われている。ゆず味噌、ゆずドレッシング、ゆずがま(ゆずの皮の入れ物)、「ゆずは料理の主役にはならないけれど、アクセントには最高」と森下店長。



奥行きが広いカウンターでゆったり落ち着ける

など、ここにしかない味がおすすすめ。カクテルはすべて600円。「ありがとうございます！」の店員さんのあいさつもさわやか。若い女性から、お勤め帰りのサラリーマンまで、気兼ねなく立ち寄れる。

DINING ゆず屋
神戸市中央区北長狭通2-6-6トアロード
ヤナセビル2F(東入口)
078-327-7887
17:00~25:00 不定休



味な街

連載20

レストラン「みやす」

神戸ビーフといえば神戸の代名詞的存在でもあり、ステーキハウスもいろいろと紹介されているが、今回は私が三十年前、来神して初めて味わった神戸ステーキの「みやす」を語りたい。私のステーキ経験は先ず戦後の東京日本橋の初代「紅花」^{（ごはな）}。モノのない時代の牛肉は値千金、キャベツ食べ放題が



外国人のお客さんが中心だったという30年前の内装をそのままに生かしている。これほどの長さの一枚板のカウンターは今では珍しい。筆者（右）と二代目美安一穂さん

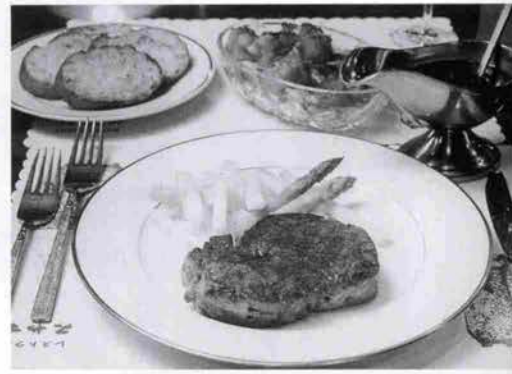
うれしかった。学生時代、大津キャンパスの酒保で食べた近江牛ステーキ。米軍将校から「近江牛は彦根城主の井伊直弼が毎年、将軍に献上した」という話を逆教育されたものだ。一九七五年頃の上海のホテルでのステーキは、園が立たぬどころか、ナイフも通りにくく、よく労働した牛なのかと冥福を祈って飲み込んだ。

当初の「みやす」は三宮駅側的小路にある素朴な造りの店で、創業者の美安節司は進駐軍食堂に勤めるうちにC.H.A.R・B.R.O.I.L炭焼ステーキのアイデアを得て一九六〇年に開業した。紀州備長炭の強い火力でカリッと仕上がった焼き目の香ばしさ、そして中は肉汁を逃がさぬように程よく加熱されて鮮紅色のミデアムレア、正にステーキの醍醐味である。濃厚な味わいのサーロイン、やや淡白なフィレ。みやすは四十年間変わらぬ味を保ち続けている。マスターによれば、ロー스가ウイスキーのオンザロックなら、フィレは水割りでの好みの問題だと言ふ。ステーキはフランス料理などと違って調理加工によって付加価値をつけられない。ただ材料と焼き方のみがすべてを決めるシンプルな料理である。「血統などの能書きにこだわらず、炭焼きに適した肉を厳選して値打ちのあるものを客に供します」と美安一穂マ

ネージャーは語る。ステーキの前に出されるサラダも名物で、フレンチとシーザースラダのドレッシングの中間のような滋味がある。店は客席から炉窯の見えるオープンキッチンでインテリアも渋く落ち着いてアットホーム。ママさんの美安昭子は店の雰囲気づくりが巧みで彼女のソシアブルな人柄と流暢な英語は外人客の食欲をそそる。ステーキの楽しさは、旨さを賞味するだけでなく、悠然と構えた肉のポリュームに挑戦するワイルドな魅力である。その意味でステーキ程、ナイフとフォークが似合う料理は他にない。正に狩猟民族の食生活にそのルーツを見る感がある。ステーキ発祥の地は英国とのことだが、ロンドンの有名店「ロウリーズ」は十九世紀から王室御用達を誇るウオールズ・ブッチャー・ショップの遺構のままスコットランド・ビーフを供し、ハーブバターソースのTポーンが名物である。ついにながらニューヨークのステーキはペンペンソとかスミス・ウォレンスキー等が有名だがアメリカ肉は日本の様なM.A.R.B.L.E.D（大理石状、霜降り）ではないが、ジュシーな旨さがある。店内は広いオープンルームでマティーニ片手に六百グラム位の肉をむさぼりつつ声高々に笑い、語り合うアメリカ人の群の中で、私はそのバイタリティーに

圧倒されて、よくぞ此の国と戦争などしたものだと思うことがある。

日本でも縄文の昔から獣肉は神への供饌物として祭祀に使われ肉食も行われたが、仏教の影響もあって肉食が多く、明治の文明開化と共に牛肉は普及し始めた。そこで日本人特有の「材料」ネタに対する執着心から肉用牛の質の改良に工夫がこらされ新しい価値が育まれ、神戸ビーフ文化が生まれた。「みやす」が神戸ビーフの繊細な味の神髄を引き出したバイオニアとして、いつまでもいぶし銀の品格に輝き続けてほしいと願うのは私だけではない。



見よ！この分厚さ。ヘレステーキは串にさし備長炭で直に焼き上げる。香ばしさが口中に広がる

レストラン「みやす」



神戸市中央区下山手通3-2-19
☎078-391-3088
12:00~21:00L.O.
(ランチタイム14:00まで)
祝祭日15:00~20:00L.O.
日祝休
※ヘレステーキコース
(ランチ) 6000円~
(ディナー) 9000円~

阿波踊り

2000を飾る真夏の世の夢！
サントリーマグナムドライ連体験記



品のいい踊りを披露する市田ひろみ先生



(写真上) マグナムドライ連を引っ張る内藤先生(左)と春団治師匠(写真右) 娘茶平連の先生に踊りの手ほどきを受ける(写真下) 極楽島が飛んで行く(本誌主筆・小泉)
(写真右下) 上手い、下手なんて関係ない。阿波踊りは楽しんだ者勝ち!



(写真上) 徳島に上陸した神戸っ子スタッフ(写真下) Vリーグサントリーサンパーズの皆さんと

でも人気は高い。バレーボールの選手たちは踊っているとき以外、どこへ行ってもサインと写真攻めにあう始末。休み暇もないほど。今回、小誌の小泉美喜子を筆頭に4人の神戸っ子スタッフが参加した。2週間前には、神戸まつりでサンパを踊ったばかりで、その余韻が覚めやらぬままの徳島上陸であった。集合場所の徳島東急インで、まず着付けを。娘茶

お祭りは、参加してこそその醍醐味が分かる。とくに人々の熱気があふれる夏祭りなら尚更のこと。お盆シーズンは夏祭り真っ盛り、全国いたる所でお祭りが開催されているが、その代表格は阿波踊りだろう。2年前の明石海峡大橋の開通により三宮から車で1時間ちよつとすつかり神戸圏内になった。新しいものの好きの神戸っ子にとって、この祭りに参加しない手はない。そんな我々の願いを叶えてくれるのが、サントリーマグナムドライ連なのだ。この人気連は約20年間にわたり、地元有名連の娘茶平連の協力を得て一般参加者を入れてくれるのだ。さらに豪華なことにサントリーのテレビCMでお馴染みの桂春団治さん、林家こん平さん、市田ひろみさん、内藤國雄さん、バレーボール、Vリーグのサントリーサンパーズの主力選手、それにキャンペーンガールの皆さんと共に参加することができるのだ。サントリーの連は、言わばタレント集団。本場徳島



(写真上)「お疲れ様」
まずはマグナムドライで乾杯!



記念にサインをいただく。
ハッピーはサインだらけに



(写真上) 三味線の腕を披露
する朝日健太郎選手
(写真左) マグナムドライキ
ャンペーンガールの黒羽夏奈
子さん

平連の皆様は手伝っていたでいて、参加者は男女を問わずハッピーにパンツ姿と勇ましく変身? ロビーで踊りの手ほどきを受ける。「手と足はいっしょの方向に動かしてください。それぐらいならできるでしょ」と、全体練習を数回繰り返し、あとは本番を待つのみ。

午後6時、我々サントリーマグナムドライ連は8つの演舞場のうち徳島市役所前の演舞場をトップでスタート。先頭は、娯茶平連のちびっ子たち。これがまた驚き! 3歳ぐらいの子供でも、手先や足の動きはもう大人顔負けなのだ! それに動きも統一されていて、とても子供たちの成せる技とは思えない。その後に、タレント集団、一般参加者がつづく。

参加者は、さぞかし緊張しているのではと思いきや、すでにマグナムドライがふるまわれ、程よくアルコールが回っている。三味線、笛、太鼓といった鳴り物、棧敷席を埋め尽くす観衆、会場すべてが祭り一色に。まるで、我々の出番を待っているかのようだ。いざ踊り出すとなると、教えてもらったことなど何処へやら、ハチャメチャだけど、皆の顔には心底お祭りを楽しんでいる様子が受けとれる。踊っては飲み、飲んで踊る。神戸っ子スタッフも2000年を飾る真夏の夜の夢を大いに満喫した。

午後9時、すべての演舞場を踊り終えると、最後は居酒屋を借りきって打ち上げ。もちろんマグナムドライで乾杯! タレントの皆さんも踊りと追っかけから解放され、ほっとした様子。すべての疲れをビールで洗い流した。ハッピーにはタレントの皆さんにサインをちりばめてもらい、これ以上ない記念となった。それにしても林家こん平さんがいるととにかく賑やか。あのパワーには恐れ入った。

(高橋)



ハイビスカスをプレゼントされて大喜びのこん平さん